

年男 年女

辰年生まれの方に

お話を伺いました!



岡田 千歳
昭和39年生まれ
植田四丁目

あけましておめでとうございませう。坂町に住み続け、還暦を迎える年になりました。

この年になって思うのは59歳で他界した父のことです。60の誕生日まであと2週間でした。父の亡くなった歳にこうして健康でいられることは感謝すると同時に、とても感慨深いものがあります。

50歳過ぎて脱サラし建築事務所をはじめました。周囲の方に助けられ順調に進んでいましたが、あの豪雨災害で事務所の手元がなくなりました。茫然自失の私に、すぐさま多くの方々から手を差し伸べてくださり、1年足らずで復旧することが叶いました。心から感謝申し上げます。

さあこれから心機一転と思ったのも束の間、コロナ禍となり仕事は減少。しかしおかげさまで、どうにかこうにか立ち回って現在に至ります。

人と人の繋がりの有り難さが、あの災害の時、身に染みしました。そして「あの時は苦しかったよね」と、笑って話せる時が来ることを願いつつ、誠実に日々を過ごそうと思います。

最後になりましたが、坂町の益々の発展と町民の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。



下畦 明代
昭和51年生まれ
小屋浦四丁目

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。自然豊かな小屋浦で生まれ育ち、今年で4度目の年女を迎えます。

私の子どもの頃はまだ田んぼがあり、春になるとカエルの卵を捕ったり海や川、山など自然の中でよく遊びました。

結婚を機に一度はこの町を離れたましたが、15年前に生まれ育った小屋浦に帰ってきました。

時代が変わり、川や山で遊ぶという事はなくなりましたが、自然豊かな町で双子の息子達は私と同じように、地域の方々に温かく見守られて、昨年無事、成人式を迎えることができました。

西日本豪雨災害により環境は大きく変わり、蛍やタニシも見られなくなりましたが、ハヤが泳いでいる川へと自然も戻りつつあり、嬉しく思います。

コロナは共存と言えど株を变化させ、まだまだ終息には至りませんが、町の行事も少しずつ再開され、人々の交流も増えてきました。

これからも地域のつながりがある住み良い町でありますように、皆様のご健康と坂町の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



永谷 昭太郎
昭和63年生まれ
平成ヶ浜二丁目

新年あけましておめでとうございませう。

3回目の年男は、妻と3人の子とも達と賑やかに迎えます。

私は坂町で70年余りパンの製造販売を行う家に生まれました。前回の年男は、坂町を離れて家業の勉強中でした。4年間の勉強は厳しく、大変な時もありましたが、そんな時は人の温かい故郷が非常に恋しくなったものです。

そして今は、この町で仕事ができる幸せを日々感じています。昨年は3年ぶりに再開された行事も多く、地元企業として微力ながらお手伝いできたことも、一町民としてコロナ前の賑やかさに戻った町の様子もうれしく思いました。

また、私達夫婦は3人の子を育てています。子ども達も坂町の自然、公園や図書館が大好きです。子どもの頃から大好きな坂町ですが、どんどん進化していく様子も誇りに思います。

年男を迎えたこの新年に、坂町の一人企業を担う者としても、益々地元へ貢献していきたいと決意を新たにしています。

最後になりましたが、坂町の益々の発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

坂町の役立つ
情報を発信中!



坂町公式LINE 友だち登録はこちら

